

福岡市総合計画審議会総会

会議録

日時 令和5年7月31日(月) 13時30分

場所 TKPガーデンシティPREMIUM天神スカイホール メインホールB

出席者（五十音順、敬称略）

石堂 高大	猪野 猛	小川 全夫
片渕 輝昭	木村てつあき	近藤 里美
後藤 明	酒匂 純子	定村 俊満
高木 勝利	辰巳 浩	谷口 初美
堤田 寛	中島 徹也（代理出席 片山 潔）	
船崎 康治	星野 裕志	堀内 徹夫
安浦 寛人		

福岡市総合計画審議会総会

[令和5年7月31日(月)]

開会

1 開会

○事務局（高橋） それでは、定刻となりましたので、ただいまより福岡市総合計画審議会を開会いたします。私は、事務局の福岡市総務企画局企画調整部長の高橋でございます。本日の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

ここから座って進行させていただきます。

本日は報道関係者がいらっしゃいます。報道関係の皆様にご利用がございまして。会議の円滑な進行のため、撮影の際は、委員の皆様の発言や議論の妨げとならないよう十分御配慮をお願いいたします。

それではまず、会議の開催に当たりまして、総務企画局長の龍より御挨拶を申し上げます。

○龍局長 皆さん、こんにちは。福岡市の総務企画局長の龍でございます。

総合計画審議会の開催に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本日は大変お忙しい中、御出席をいただき誠にありがとうございます。

皆様御承知のとおり、総合計画は福岡市の全ての施策・事業の基本となる、まさにマスタープランでございますが、現在の総合計画を策定してから10年が経過いたしました。皆様のお力添えをいただいて策定した本計画に基づき様々な取組みを着実に進めてきた結果、人口はこの10年間で14万人増加し、163万人を超え、当時の将来推計における見込みを5万人以上上回っております。また、市税収入も着実に増加し、先日発表した令和4年度の決算見込みでも過去最高を更新するなど、福岡市は元気なまち、住みやすいまちとして評価をいただいております。

一方で、日本全体に目を向けると、加速する少子高齢化への対応、コロナや物価高騰で傷んだ経済の回復、多様な価値観が受け入れられる持続可能な社会の実現など、多くの課題にチャレンジしていく必要がございます。こうした中で、このすばらしいまち福岡市をさらに発展させ、次世代の若者や子どもたちに引き継いでいくため、市民の皆様から御意見をいただきながら新たな計画を策定していく取組みをスタートしたところでございます。

本日は、この10年を振り返り、次期計画の策定に向けて皆様の忌憚のない御意見を頂戴できればと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（高橋） では初めに、お手元の資料の確認をさせていただきます。資料の右肩につけております資料番号を御覧いただき、資料1から資料6、また、参考資料4点がおそろいか御確認ください。資料が大変多くなっておりますが、全てお手元にございますでしょうか。不足がございましたら事務局職員までお申し出ください。

なお、本日の資料は、後日郵送でお届けすることも可能でございます。詳しくは会議の最後に御案内いたします。

資料の確認については以上でございます。

次に、委員の皆様の御紹介についてでございます。

お手元に資料1として、福岡市総合計画審議会委員名簿を配付しておりますので、こちらで代えさせていただければと存じますが、本年の6月より木村委員、中島委員、船崎委員に新たに御就任いただいております。

中島委員につきましては、本日は所要により代理で片山様が御出席されております。

また、石堂委員は、所用により15時30分までの御参加となっております。

2 議題

○事務局（高橋） では、福岡市総合計画審議会規則第8条第2項の規定に則り、ここからは会長に議事の進行をお願いしたいと思います。安浦会長、よろしく御願いいたします。

○安浦会長 皆さん、こんにちは。お暑い中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ここからは、私、安浦が進行を務めさせていただきます。

初めに、本日の議題について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（高橋） それでは、事務局から御説明いたします。

本日の審議会の議題は、お手元の次第のとおり、第9次福岡市基本計画の振り返りについてでございます。

この議題は、福岡市総合計画審議会規則第3条第2項の規定に基づく総合計画の推進に関する報告でございまして、報告事項に対し、委員の皆様に御協議、御意見をいただくものでございます。

本日いただいた御意見につきましては、取りまとめの上、後日、皆様にお送りするとともに、資料や議事録と併せまして市のホームページで公開することといたしております。

以上でございます。

○安浦会長 ありがとうございます。

では、議題に入りたいと思います。

この総合計画審議会でございますけれども、10年前に皆様と議論をして作った総合計画について、フォローアップを年1回続けてきて、今回が最後になります。ぜひ皆様方の忌憚なき御意見をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

まず、事務局から全体を説明していただきまして、その後、委員の皆様方からの御意見を頂戴する流れとしたいと思います。

それでは、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（染井） 総務企画局企画課長の染井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、私から資料の御説明をさせていただきます。

座って説明をさせていただきます。

資料2、「第9次福岡市基本計画の振り返りについて（概要）」と表題がついた資料を御覧ください。

福岡市では、平成24年12月に皆様のお力添えをいただいて策定しました第9次福岡市基本計画に基づきまして、都市の成長と生活の質の向上の好循環を創り出すことを都市経営の基本戦略として掲げ、この10年間、まちづくりを進めてまいりました。

これまでの取組みの結果、人口や市税収入は増加し、また、市民アンケートで「住みやすい」とお答えいただいた市民の方の割合が10年連続で95%を超えるなど、元気なまち、住みやすいまちとして評価をいただいております。

一方で、少子高齢化の進展やコロナで傷んだ経済の回復、また、DXやGXをはじめとしまして市民ニーズも多様化しておりまして、福岡市政を取り巻く課題は多岐にわたっております。

これから新たな基本計画を策定していくに当たりまして、これまでの10年間の取組みを施策分野ごとに取りまとめましたので、現状と課題、今後の方向性などにつきまして皆様の御意見を頂戴できればと思います。

では、まず、ユニバーサルデザイン、人権、福祉などの分野でございます。

ユニバーサルデザインの普及啓発やバス停などにベンチを設置するベンチプロジェクトを推進するとともに、道路のバリアフリー化、ノンステップバスの導入などバリアフリーのまちづくりを推進してまいりました。また、誰もがお互いを理解し、安心して笑顔で自分らしく遊ぶことができる「インクルーシブな子ども広場」の実証実験を行いまして、昨年度、整備指針を策定したところでございます。

次に、人生100年時代の到来を見据えたプロジェクト「福岡100」を平成29年に開始し

まして、高齢者の活躍や買物などの生活支援、健康づくりなどを推進するとともに、「認知症フレンドリーシティプロジェクト」として、認知症コミュニケーション・ケア技法である「ユマニチュード」の普及、認知症の人の活躍を支援する福岡オレンジパートナーズの設立などを実施しております。

また、障がい者差別解消条例を平成31年に施行し、差別の解消や理解促進を図るとともに、区障がい者基幹相談支援センターの設置、障がい者グループホームの設置促進、障がい者工賃向上支援センターの設置など、障がいのある人が暮らしやすいまちづくりを推進しております。

さらに、性的マイノリティに関する支援方針を平成30年に策定し、パートナーシップ宣誓制度やLGBTQフレンドリー企業登録制度の導入など、市民や社会の理解を深めるための取組みを推進しております。

続きまして、子ども、教育の分野でございます。

子育て世代包括支援センターや不妊専門相談センターの設置、妊産婦や乳幼児に対する健康診査の充実、産後ケアや産後ヘルパー派遣など、出産前から出産後、子育て期まで切れ目ない支援を実施しております。

次に、10年間で約1万5,000人分の保育の受け皿を確保するとともに、家賃や奨学金返済の支援などにより必要な保育士を確保し、待機児童をほぼ解消しております。また、様々な就労形態への対応、障がい児や医療的ケア児の受入れなど、多様な保育サービスの充実に取り組んでおります。

2ページをお願いいたします。

次に、障がいの早期発見・早期支援のため、南部地域の相談・診断・療育機能を担う施設の整備を進めるとともに、児童発達支援センターの開設、放課後等デイサービスの充実など、障がい児への支援、療育体制を整備しております。

また、子ども家庭支援センターや産前・産後母子支援センターの設置、SNSを活用した相談事業の開始など児童虐待の未然防止に取り組むとともに、子ども食堂への支援、習い事費用の助成など貧困の状況にある子どもたちへの支援を実施しております。

次に、小中学校全学年での35人以下学級や、小学生を対象に放課後補充学習を行う「ふれあい学び舎事業」の実施、GIGAスクール構想に基づく1人1台端末などのICT環境の整備などによりまして、全ての児童生徒の学力向上を図るとともに、ネイティブスピーカーやゲストティーチャーを配置し、生きた英語を学ぶ機会の充実に取り組んでおります。また、学校生活支援員の配置、医療的ケア支援体制の整備、特別支援学級の整備など、一人ひとりのニーズに応える教育を推進しております。

次に、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの大幅な拡充、児童生徒が主体となっていじめの防止について考える「いじめゼロサミット」の開催、SNSを

活用した教育相談体制の構築などにより、いじめ・不登校などの未然防止、早期対応を推進しております。

さらに、小中学校の規模の適正化や、普通教室及び特別教室への空調整備、公立夜間中学校の開校、福岡市科学館の整備など、教育環境の整備を推進しております。

続きまして、文化芸術、スポーツの分野でございます。

福岡市美術館のリニューアル、福岡アジア美術館の魅力向上、市民会館の機能を継承した新たな拠点文化施設の整備など、文化振興の拠点整備を推進しております。

次に、様々なアートイベントを行う「FaN Week」を開催し、市民が身近にアートに触れる機会の充実を図るとともに、アーティストの支援を行う「Artist Cafe Fukuoka」を開設するなど、彩りにあふれたアートのまちを目指す「Fukuoka Art Next」を推進しております。

また、福岡マラソンの開催、福岡市総合体育館の整備など、誰もがスポーツ・レクリエーション活動に親しむことができる環境づくりを推進するとともに、ラグビーワールドカップや世界フィギュアスケート国別対抗戦、世界水泳選手権、プロスポーツなど、市民が身近でトップレベルの競技を観戦できる機会を通じまして、スポーツの振興に取り組んでおります。

続きまして、地域コミュニティ、共働でございます。

共創による地域コミュニティ活性化条例を令和4年に制定し、地域コミュニティの大切さについて市民と共有するとともに、自治協議会共創補助金や地域活動に関するアドバイザーの派遣、区役所の体制強化などにより地域コミュニティの主体的な取組みを支援しております。

次に、公民館の施設規模を150坪に拡大するとともに、Wi-Fi環境の整備、なみきスクエア、ともてらす早良の整備、南市民センターのリニューアルなど、地域活動の拠点整備を推進しております。

また、公民連携ワンストップ窓口「mirai@」を平成30年に設置し、民間事業者の先端技術などを活用しながら社会課題の解決や市民生活の質の向上を促進しております。

3ページをお願いいたします。

続きまして、防災、都市基盤でございます。

災害対策本部室の本庁舎15階への移転整備、公民館への給電設備設置などによる災害時の電源確保、防災アプリ「ツナガル+」の開発・運用、九州市長会防災部会の設立などによりまして、防災・危機管理体制を充実・強化するとともに、地域における避難所運営訓練や個別避難計画の作成支援などにより地域防災力の向上に取り組んでおります。

次に、中央区における消防署所の再編整備、福岡都市圏における消防通信指令業務の共同運用、救急隊の増隊などにより消防・救急体制を充実しております。

次に、歩行空間の整備や安全対策など、身近な生活道路の改善を推進するとともに、踏切による交通渋滞や事故の解消などを図るため、西鉄天神大牟田線連続立体交差事業を実施しております。

次に、雨水整備D oプランや、雨水整備レインボープラン天神により浸水対策を推進するとともに、都市基盤河川改修事業などにより河川の治水安全度の向上に取り組んでおります。

次に、五ヶ山ダムの建設、計画的な配水管の更新、漏水防止対策、下水処理水の有効利用などによりまして、安全で良質な水道水の安定供給と節水型都市づくりを推進しております。

次に、市営住宅の耐震化やバリアフリー化、高齢者や子育て世帯の住み替え助成などによりまして、良質な住宅・住環境づくりを推進しております。

続きまして、感染症対策、防犯、モラル・マナーの分野でございます。

新型コロナウイルス感染症の発生を受けまして、検査体制や医療提供体制の充実、ワクチン接種などの対策を推進するとともに、事業者の感染症対策に要する経費の支援や感染症対策を実施するビル計画に対する容積率緩和制度の活用などにより、感染症に対応したまちづくりを推進しております。

次に、街頭防犯カメラ設置の助成、客引き対策、飲酒運転撲滅対策、暴力団排除対策などによりまして、地域の防犯力の向上を図りますとともに、放置自転車対策や自転車通行空間の整備、路上喫煙対策、動物愛護の強化などにより安全・安心なまちづくりを推進しております。

続きまして、環境、自然、交通でございます。

2040年度の温室効果ガス排出量実質ゼロに向けまして、住宅やオフィス、市有施設などにおける再生可能エネルギーの導入や省エネ化などを促進するとともに、ごみの減量及び資源化を進め、環境負荷が少なく、持続可能な社会づくりを推進しております。

次に、市民や地域、企業などとの共働により、「一人一花運動」や「都心の森1万本プロジェクト」に取り組み、彩りや潤いにあふれ、緑豊かなまちづくりを推進するとともに、水上公園や動植物園、高宮南緑地などにおきまして、民間活力を導入した賑わい・魅力づくりを推進しております。

次に、農山漁村地域におけるビジネスの創出や定住化の促進、農林水産業の振興や海辺を活かした観光振興などにより、市街化調整区域の活性化を推進しております。

4ページをお願いいたします。

次に、地下鉄七隈線の延伸、都心循環B R Tの導入、都心部におけるフリンジパーキングの確保、生活交通の確保に向けたオンデマンド交通を活用した社会実験などによりまして、公共交通を主軸とした総合交通体系の構築を推進しております。

続きまして、観光・MICEでございます。

クルーズの誘致や福岡空港の機能強化、博多旧市街プロジェクト、屋台、祭りなどの観光資源を活かしたプロモーション、無料公衆無線LANや多言語・キャッシュレス対応などの受入れ環境整備などにより、入込観光客数は平成25年度から令和元年度まで過去最高を更新しております。

一方、新型コロナウイルス感染症の発生・拡大によりまして、令和2年度から令和3年度にかけてインバウンドや国内観光需要は著しく減少いたしました。令和4年度以降、水際対策が順次緩和されまして、観光需要が回復し、クルーズ船の受入れも再開しているところでございます。

次に、MICE誘致の専門組織「Meeting Place Fukuoka」の設置、マリンメッセ福岡B館の整備など、MICE拠点の形成を推進し、G20財務大臣・中央銀行総裁会議をはじめ、令和元年度までは多数の国際コンベンションが開催されております。コロナ発生以降は、オンラインを活用した誘致活動を行うとともに、安全対策やハイブリッド開催への支援を実施しております。

続きまして、産業振興、地域経済、スタートアップの分野でございます。

九州大学の研究シーズを活用した研究開発次世代拠点の形成に取り組むとともに、エンジニアカフェを開設し、エンジニアフレンドリーシティ福岡を推進しております。また、下水バイオガスを活用した世界初の水素ステーションを開設するなど、水素リーダー都市プロジェクトを推進しております。

次に、産学官民が一体となり設立された福岡地域戦略推進協議会の成長戦略を支援し、国家戦略特区の獲得、部会や会員ネットワークを活用したプロジェクトの検討・事業化などにより、福岡市及び福岡都市圏の成長に資する事業を推進しております。

次に、立地交付金や地方拠点強化税制の活用、国内外におけるPR活動などによりまして、成長分野・本社機能の企業誘致を推進し、10年連続で50社以上の進出を達成するとともに、産学官による「TEAM FUKUOKA」の一員として国際金融機能の誘致を推進しております。

次に、キャッシュレスの普及促進や企業間取引のデジタル化などにより中小企業の生産性向上を支援するとともに、コロナ下における事業者支援としまして、家賃支援や休業要請対象外施設への支援、商工金融資金制度の充実、プレミアム付商品券の発行支援などを実施しております。

次に、商店街のイベント開催支援、アーケードや防犯カメラの設置支援などにより、にぎわいと魅力ある商店街づくりを推進するとともに、伝統産業の販路拡大や後継者育成などを支援しております。

次に、農林水産物のブランド化を推進するとともに、就農相談や女性農業者の育成、

農福連携などにより、農林水産業の多様な担い手づくりを支援しております。また、新青果市場の整備や鮮魚市場の機能更新などを実施しております。

5ページをお願いいたします。

次に、平成24年にスタートアップ都市福岡を宣言し、平成26年の国家戦略特区の指定を推進力としまして、スタートアップカフェの開設や「Fukuoka Growth Next」の開設、スタートアップビザ制度の創設など、スタートアップの裾野の拡大に取り組み、800件以上の起業を支援するとともに、海外スタートアップ拠点との連携などにより、グローバルに活躍できる創業の環境づくりを推進しております。

続きまして、都心部、拠点、ゲートウェイでございます。

規制緩和などによりまして、耐震性が高く、先進的なビルへの建て替えを誘導する天神ビッグバンや博多コネクティッドを推進するとともに、ウォーターフロント地区ではマリンメッセ福岡B館の整備を行うなど、地区の特性を活かした魅力あるまちづくりを推進しております。

次に、アイランドシティでは、道路、緑地などの都市基盤整備が進み、良好な住宅市街地の形成や、健康・医療・福祉関連施設や商業・宿泊施設など多様な都市機能が集積するとともに、都市高速道路の開通などにより利便性が向上しております。また、九州大学学術研究都市では、研究開発拠点の形成、道路・河川などのインフラ整備などを推進しております。

次に、福岡空港では、平行誘導路の二重化や滑走路増設などによる機能強化、国内線ターミナルビルの再整備や都市高速道路の延伸などによる利便性向上を推進しております。博多港では、アイランドシティで岸壁やコンテナヤード、福岡高速6号線の整備などを進めるとともに、クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、中央ふ頭でクルーズセンターの整備や西側岸壁の延伸などを実施しております。

続きまして、国際の分野でございます。

在住外国人数は年々増加しておりまして、外国人総合相談支援センターの設置、多言語での情報発信、地域と外国人住民との交流、日本語教育の推進などにより、アジアをはじめ世界の人にも暮らしやすいまちづくりを推進しております。

また、アジア太平洋都市サミットの開催、国連ハビタット福岡本部の支援などによりまして、福岡市の国際的なプレゼンスを高めるとともに、ヤンゴン市への技術職員の長期派遣、フィジーやインドなどにおける技術協力などの国際貢献を実施しております。また、福岡アジア文化賞やアジア太平洋こども会議・イン福岡などを通しまして、市民レベルでの国際交流を推進しております。

最後になりましたが、資料3としまして、51の施策ごとに取り組みをまとめました、より詳しい資料をお配りしております。また、資料4としまして、人口や経済指標などの

参考データ集を御用意しております。また、特に令和4年度の取組みを詳しくまとめた報告書を資料5としまして、さらに、地方創生に係る実施状況を資料6としてお配りしておりますので、併せて御参照いただければと思います。

私からの説明は以上でございます。御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○安浦会長 ありがとうございます。第9次基本計画を策定してから10年が経ったということで、これまでの福岡市の取組みを振り返っていただきました。

本日の審議会は、今の体制で開催する最後の審議会ということで、委員の皆様ぜひこれまでの成果や課題を踏まえて、これから10年の福岡市をどうしていくべきかという視点で、次の計画作成の参考となります御意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、御参加の委員の皆様全員に御発言いただきたいと思っております、御意見をいただく時間に限りがございますので、委員の皆様方には、要点を簡潔に御発言いただくようお願いしたいと思います。よろしく御協力をお願い申し上げます。

では、御意見のある方から挙手をお願いいたします。

それでは、どうぞ。

○委員 どうもお疲れさまでございます。まず私のほうから、施策のことについて3点質問をさせていただき、その後、私の意見を述べさせていただきたいと思っております。

1点目の質問は資料の3です。39ページ、施策の5-4です。

交流がビジネスを生むMICE拠点の形成についてですが、国内部門でも国際部門でも、コンベンション開催件数が激減しています。来年度末の目標値が達成できる目途はあるのか、お答え願いたいと思っております。

それから、41ページです。施策の5-6です。

国内外への戦略的なプロモーションの推進についてですが、福岡市への外国人訪問者数、外航クルーズ客船の寄港回数について、いずれも激減しています。目標値への達成の目途をどう考えているのか。特にクルーズ船は、今年150隻以上の寄港予定とのことでしたが、今現在はどうなっているのか、答弁を求めたいと思っております。

質問の最後に、資料3の59ページです。施策の8-4です。

成長を牽引する物流・人流のゲートウェイづくりについてです。これについても、成果指標の項目の最新値は、コンテナについては初期値と変わらないけど、ほかは大きく下回っており、来年度末の目標値達成の目途をどう見ているのか、答弁を求めて、その3つの質問の回答を聞いて、私の意見を述べさせていただきます。

○安浦会長 それでは、回答を市のほうからお願いします。

○事務局（染井） 1点目、2点目、経済観光文化局、いかがでしょうか。

○観光コンベンション部長 経済観光文化局観光コンベンション部長の中村と申します。
よろしくお願いたします。

私のほうから、MICEの回復状況について回答させていただきます。

委員ご指摘のとおり、コロナ禍におきましては、MICEは開催されたものの、例えばオンラインであったりハイブリッドであったりという状況でございましたけれども、ここ最近リアル開催が増えてございまして、誘致につきましても、2年後、3年後の国際会議につきましても誘致が順調に進んでおりますので、コロナ前の水準に今後は戻っていくものと考えております。

以上でございます。

○安浦会長 2つ目の質問はいかがでしょうか。

○観光コンベンション部長 クルーズ船の状況でございますけれども、3月にクルーズ船が再開して以降、現在、一月ベースで大体7隻から8隻程度入港してございますが、クルーズ船社におきましては、今後、増加していくという話を聞いてございますので、受入れ環境の整備と併せながら、誘致についても努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○安浦会長 現在の寄港数が分かっているならばお答えいただきたいんですが、今年度はまだゼロですか。

○観光コンベンション部長 現在につきましては、本年3月に受入れ再開して、35隻程度寄港してございます。

以上でございます。

○安浦会長 ありがとうございます。

それから、最後の59ページの御質問は、これはどちらに。港湾局ですか。

○事務局（染井） 港湾空港局、お願いたします。

○港湾計画部計画課長 港湾空港局計画課長の吉岡と申します。

博多港の国際海上コンテナ取扱個数のお尋ねでございますが、令和元年に過去最高の96万TEUを達成するなど、中長期的に見ますと増加傾向で推移しておりましたが、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、世界的な海上輸送の混乱や半導体の供給不足などが生じたことに加え、ロシアにおける日本企業の事業停止など国際情勢の影響も受けたため、令和4年は約89万TEUとなったところでございます。

今後の見通しでございますけれども、令和3年3月には自動車専用道路のアイランドシティ線が供用開始いたしまして、ターミナルへのアクセスが向上しております。また、令和5年3月にはアイランドシティコンテナターミナルのヤードを拡張するとともに、コンテナターミナルの背後におきましては、今後、物流施設が集積する予定がございまして、コンテナ取扱個数の増加が見込まれているところでございます。

以上でございます。

○安浦会長 御質問は、コンテナよりも外国航路及び空港の激減した乗降人数が戻る可能性があるかということだったと思います。

○港湾計画部計画課長 外航航路の船舶乗降人員につきましては、平成28年に過去最高の約212万人を記録いたしまして、目標値に達するなど堅調に増加しておりましたが、令和2年以降は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、減少しているところでございます。

しかしながら、令和4年11月には日韓定期航路と国内クルーズ船、令和5年3月には外航クルーズ船の受入れを再開しておりまして、特にクルーズ船につきましては博多港の寄港への要望もあることから、今後回復するものと考えております。

以上でございます。

○安浦会長 空港も同じですね。

○空港振興部長 空港について御答弁させていただきます。空港振興部長の横手と申します。

令和5年度の空港の利用の見込みでございます。空港を運営しております福岡国際空港株式会社の見込みによりますと、旅客数は今年度2,000万人を超えるという見通しを立てております。現在、5月の直近のデータが手元にあります。足元の状況としては、国内線についてはもう既にコロナ以前の水準に戻ってきていると。国際線については、

全体としては80%の回復。ただ、これは日本人の出入国が50%程度にとどまっているためでありまして、外国人の出入国については100%まで回復している状況でございます。以上でございます。

○安浦会長 ありがとうございます。

それでは、どうぞ。

○委員 それでは、意見を述べさせていただきます。

1点目は、インバウンド呼び込み型の市政は転換しなくていいのかということは今、聞きながら強く思いましたので、その点について述べさせていただきます。今、いろいろと言われた数字は、やはり各審議会の委員さんも、ここが戻るのかということですから心配している数字だと思うので、今のような答弁が初めからあるんだったら、それは報告の段階からきっちり文章に書いてもらうのが丁寧じゃないかなと思います。

しかし、お尋ねしたことについては、見通しについてはなかなか見通しの見えない答弁だったと言わざるを得ません。基本計画どおりに進んでいないことを正面から受け止めて、別の手だてを打たなければならないときに来ているんじゃないでしょうか。コロナだとか社会経済情勢の変化と言われるのであれば、それに応じた基本計画の進行管理が必要です。

お手元の資料の参考資料1に福岡市総合計画に関する規則があります。第5条の2、基本計画は、特に著しい社会経済情勢の変化又は特別な理由がない限り変更しないものとするとしており、あなた方が社会経済情勢の変化だと思っているのであれば、規則に基づいて、逆にもうこの成果指標では無理だと宣言し、規則に基づき本市の施策の見誤りが起きたというふうにして、特別な理由があるからと変更すべきではないかと思えます。

数値目標をこのままにしておけば、これから2年間、クルーズ船の入港のため、福岡空港の航空路線拡大のため、市役所を挙げてシティセールスをしていかなければなりません。また、コンテナ取扱量を増やす手だてを取らなければならない。そういう行政運営が求められます。それは全く無駄です。社会経済情勢が変化しているわけです。現状に合わない成果指標の追求はやめるべきです。

2点目の意見を述べます。市民生活の質の向上に抜本的な力を入れるべきだと思います。福岡市の経済を見る上で、民間法人の所得と家庭の状況を見るのが基本です。総務企画局の統計調査課の福岡市民経済計算では、高島市政のこの第9次基本計画の中で、民間法人の所得は1.1倍上昇、一方、家計の可処分所得は1世帯当たり36万円ダウン、人口1人当たり5万円ダウンという数字が出ています。とりわけ市役所をはじめとした

非正規労働者の増大が大きく影響しています。

基本計画の推進によって民間大企業はたくさんもうけを上げたが、福岡市民は貧しくなった。これがあなた方の資料から浮き彫りになっている数字です。つまり、都市の成長は市民の生活の質の向上には回ってきておらず、この基本計画は大きなところでは破綻をしています。したがって、この総合計画の推進について、延長期間に必要なことは、市民生活の質の向上に抜本的な力を入れて、それらの施策を次の総合計画の大きな柱立てにしていくことじゃないかということ意見を申し上げておきたいと思います。

3点目、インバウンドや呼び込み型の大型開発路線をやめて、市民生活応援型の市政に切り替えるべきだということです。例えば、課題だと言われている少子高齢化の進展については、市民の働き方改革や市民生活環境の整備、女性差別をなくしてジェンダー平等の社会に変えるなどの観点が抜け落ちています。また、コロナで傷んだ経済回復も課題だと言われていますけど、傷んでいるのは市民生活であり、例えば学校給食費の無償化など、子育て世帯全体の生活支援となるような施策こそが求められています。教育においては、教員不足がどの学校でも大問題になっているわけで、その抜本的な手だてが緊急に必要です。少子高齢化や経済回復について、今申し上げた点を補完指標に入れるべきです。

4点目、気候危機への対応の強化についてです。昨年、気候非常事態宣言を行ったわけですが、それに見合う施策が見当たらず、従来の延長線上のままです。例えば本市の場合、電力に着目すると、CO₂排出の相当部分が購入電力によるものです。再生可能エネルギー発電所や太陽光発電の増設を市内に図るとともに、住民や事業者がCO₂排出の少ない電力を選んで購入することが大事になります。そのことを補完指標に入れるべきだと思います。

そして、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会から持続可能な地域循環型経済への転換、天神や博多駅一極集中の是正、省エネ、再エネなどによる新たな仕事と雇用の創出などを今後の総合計画の中で大きな柱にしていくべきです。

最後に、市民参加の問題です。私が述べたような内容の補完指標を設置するなどして抜本的な市政運営を切り替えていこうとすれば、福岡の経済や社会の構造的な改革が必要となります。その達成のためには、広範な市民の参加と共働が必要です。基本計画の論議に多くの市民参加が図れるように、スペインのバルセロナ市を参考にすべきです。

バルセロナ市の人口は福岡市と変わりませんが、自治体行動計画提案書作成のプロセスには12万人が参加しました。提出された1万860件の提案のうち、1,467件が公式の計画に盛り込まれました。さらに、オンラインとオフラインを融合させて議論を活性化させています。今、これを見習って東京都の杉並区などでも参考にする動きが出てきています。本市の市民参加型の計画作成について、対応を強く求めて私の意見とします。

○安浦会長 どうもありがとうございました。ただいまの委員の御意見、ぜひ御参考にしていただきたいと思います。

それでは、ほかの委員の方、御意見、御質問。

どうぞ。

○委員 ありがとうございます。

10年経ったのかと感慨深く思っております。10年前に策定に関わらせていただいたときのイメージとしては、非常に福岡市が活気ある都市で、アジアに開かれて、若者がスタートアップに燃える、そういうイメージをしておりました。

その点については、スタートアップについてはかなりイメージどおりと見ております。アジアに、海外に開かれたという意味では、コロナの影響もありましたから、なかなか難しい面はあったと思うんですけども、そこは今後に期待したいなという感想を持っています。

もう1つ言えば、この10年間でかなり人口が増えてきてはいるんですけども、これは九州の各地の人口を吸い上げたような格好になっています。ここは非常に気になるところで、じゃあ、福岡市の役割は何なのかと考えたときに、九州という地域に対する責任があるんだろうと、それはつくづくこの10年間思いました。次の計画策定に当たっては、そういった視点も必要なのではないかと思っています。一方的に九州に対する責任というよりは、共に地域全体として発展していくためのリーダーという視点が必要かなと思いました。

あと、具体的に2つ、簡単に申し上げたいと思います。

成果指標については、全体的に、暮らしに関する満足度が低めだなというのが気になりました。障がい者の方とか、教育とか人権尊重で満足度の数値が若干低めであると。これは、住みやすいと考えている方が95%もいながら、こういった方たちの数値が低いということは、何かやはり問題があると思います。なので、次期の計画の策定に当たっては、もう一度何が問題なのかを洗い出す必要があるのではないかと思います。

もう1つ、最後になりますけれども、気になる点としては、公民館の利用率や地域活動への参加率がまた低くなっています。これもコロナの影響がかなりあるかと思っています。ただ、コロナが終わればこの傾向が戻ってくるかというと、恐らくそうではなくて、私たちの新たな日常というのはかなり定着してしまっています。なので、この数値を上げるためには、やはり新しい仕掛け、工夫が必要なのではないかと思っています。この辺りも検討が次期の策定では必要かなと思いました。

以上です。

○安浦会長 多方面からの御意見ありがとうございます。ぜひ御参考にいただければと思います。

ほかの委員、いかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 この10年間に修正したほうがよかったのかなと今すごく感じているのが、現在はSDGsに関して17項目があります。世界中がその項目に対して取り組んでいる状況です。この項目について、基本計画をこのSDGsの17項目に分けて見るのが今までにできなかったんだろうかという、私自身がその反省というか、それがすごくあるんですね。これだけ時代が急速に変化している中で、10年前の計画をずっとやってきて、その修正をしてこなかったという反省をすごく感じます。

今、すごく多様性、10年前の社会と今の現在の社会を見比べてみますと、私としては一番、人口の変化というのももちろんですけど、そこで働く女性の仕事、社会進出のパーセンテージがすごく上がってきている。その中で、特に施策の1-7になりますけれども、子どもが健やかに育って安心して生み育てられる社会、そういう社会を求めていたんだけど、女性たちが70%、80%は社会に出て活躍をしている。そういう中で、ワーク・ライフ・バランスがまだ十分に取り入れられていない。女性だけではなくて男性の育児だとか家事だとか、そういうバランスがどういうふうに変化してきているんだろうか、それもあまり変化がないような感じに思います。

それから、もう1つが、施策の2-3になります。支え合いや助け合いによる地域福祉の推進ということで、地域での支え合いにより、子育て家族や高齢者の住みやすいまちづくりとありますが、今、独居の人たちが全国では40%を占めるということです。そういう人たちと、家族というか、そういう変化が10年前ともう全然変わってきている。そういう人たちが本当に住みやすい社会を作らないといけない。

家族という血のつながった家族が最近では断絶しつつある。社会が一つの家族になって、そういう単身者のケアをしていかなければいけないんだという社会になっています。そういう中で、特にアジアの人たちの生活満足度はすごく高くなってきているんですが、この人口の中、人手が足りないということがすごく今、大きな問題になっております。特に介護の問題、高齢者等の福祉施設では、介護をする人たちがいないので、本当に外国から人手を雇わなければいけないというのが必須になっているそうです。

そういう現状で、どの市も外国人の人口が増えてきています。これは医療施設だけではなくて、他の飲食業などでも、外国人を多く雇っているのが現状だと思います。それだけ社会の人口の変化と日本人と外国人の比率がかなり変わってきている。そういう中

で、福岡市は住みやすいまちをこれから作っていかなければ、立ち行かなくなるのではないかというところが私の意見になります。ありがとうございます。

○安浦会長 多方面からの御意見をどうもありがとうございました。

ほかの委員の方々、いかがでしょうか。

どうぞ。

○委員 この10年間を振り返ってみますと、当初設定した目的はかなり達成しているのかなと思ひまして、私の意見としては、いろいろ調整すべき点やあるいはコロナなどの外的要素により、いろいろと予想どおりにいかなかった部分はあるんですけども、概ねうまくいったのかなというのが一つの感想でございます。

ただし、最初の計画を作る段階で申し上げたんですけども、先ほどお話がありましたように、目標人口160万人で計画を立てると、結局これはトレンドなので、周囲の市町村、あるいは九州の他県から人を吸い上げるだけで終わってしまうんじゃないかと。これが九州のリーダーの姿でいいのかというのは申し上げたかと思ひます。そのときに、もう少し野心的に目標人口を上げて、よそから人を呼び込んで、これが九州各地、そして福岡市の周辺の市町ににじみ出していく、これがリーダーの姿じゃないかと申し上げたのを思い出しました。

そう考えると、今後ですけども、やっぱり福岡市は非常に全国的にも他の市町村から羨ましがられる存在で、財政的にも、今のところ何とかやっけていっている状況ですが、これからさらに福祉や子ども、そして教育などに力を入れていこうとすると、やはり金も必要なわけですし、そのためには稼いでいかないといけない。稼ぐ力を向上するとすると、これまでの雇用形態以外の雇用を新たに創出していくことも重要と考えています。

工学部を出た優秀な学生は、なかなか福岡に職場がなくて、みんなよそに出ていってしまっているのが実情です。そして彼らは、それなりに稼ぐ力を持っている人たちです。そういうことを考えると、現在は第3次産業中心のまちになっているんですけども、熊本の半導体とかいろいろお話もありますように、それ以外の第2次産業的なところもこれから少し力を入れていく必要があるんじゃないかと考えております。そういうことでさらに稼ぐ力を向上して、それがまた福祉や教育、子どもに回っていく、あるいは、防災にも、もう少し力を入れる必要があるかと思ひます。そういったところに回していけるといいんじゃないかと思ひています。

それから、観光もまだまだ発展の余地があるのかなと。今、コロナで少し落ち込んでいるところはありますけども、これも、恐らく同じコンテンツだと飽きられると思ひますので、新たな目玉をある程度作り続けないと観光は維持できないところもあるかと思

います。そういった意味では、種地としてウォーターフロントがありますので、既に計画は出ておりますけども、これからここに少し力を入れていくことが重要になってくるかと思っております。

細かいところでは、ウォーターフロントにどうやって行くのかということで、都心循環BRTだとか今ありますけれども、本来、BRTは専用レーンが必要なんですけど、それができていないともありますし、あるいは渡辺通なども非常に渋滞が激しいんです。かなり通過交通が入っているというのもありまして、渡辺通の南側の渡辺通1丁目だとか、あちら方面から都市高速に向かう需要が通過しているというのがありますので、これは福北公社ですけれども、余裕があるのであれば、天神北ランプから地下を通過して渡辺通1丁目方面に抜くような大がかりなことをやってもいいのかなと。福岡市だったらそれができるんじゃないかと。東京は普通にやっていますので。

そういったところで、私としては、現状はまあまあなのかなと思うんですけど、もう一段チャレンジしてもいいんじゃないかなと思っているところでございます。

以上でございます。

○安浦会長 どうもありがとうございます。

○委員 まず全体的には、資料5の前半にある総括の評価を見て、丸の部分、二重丸の部分は頑張っていたんだなということで、問題は三角ですね、やや遅れているものをどう評価、反省するかだと思っています。やはりコロナが影響して、人や物が動かなかった部分が大きく影響して三角にならざるを得なかったんだろうなという感想は持っていますけれども、そのことを踏まえて、次どう見ていくのかが大事なことなんだろうなと思っています。

それから、前回の審議会のときにも発言したんですけども、やはり成長する分野であるとか見た目がいいというか、プラスの部分をもっとよくしていくのも大事ですけども、私としては、負の部分、マイナスの部分、底上げの部分もぜひ大事にしていきたいと思っています。

ただ、一方で心配しているのは、負の部分をよく見せるために数字が見えなくなる。資料編でいけば、子どものいじめだとか不登校が、私は数字がちゃんと出てきて、数字が増えちゃった分はそれはそれでいいと思っていて、変に水面下に隠れて見えないよりは全然数字はあっていいと思っているので、そのことを我々大人がどう受け止めて対応していくのか、そういう部分では、負の数字もしっかり見ながら次は描いていけるといいかと思っています。

あと最後に、福岡市を語るときに、市で生活している市民と市外から市に働きに来る

人、市に遊びに来る人、大きくはこの3つのグループがあると思っています、この3つのグループにとって福岡市は魅力があって、いい市だと思えるようなものを描いていくことが必要かなと思っています。今期は私、途中からの参加になっていますけれども、次を描くときには、そういうことも意識できればなと思っています。

以上です。

○安浦会長 どうもありがとうございます。特に負の数字が出たときに、それをどう解釈するか、いわゆる行政の透明性、これが透明になれば、当然、見えなかったものが見えてくることもあるわけですから、そういう視点も非常に重要な御指摘であると思います。ありがとうございました。

そのほか何か。なければ順番に御意見を伺いたいと思いますけど、いかがでしょうか。

○委員 1点、今回の第9次の中で申し上げたいところが、施策5-1の観光資源となる魅力の再発見と磨き上げということで、福岡市では今、天神ビッグバンや博多コネクティッドで都市の再整備が進んできております。そういった中で、コロナも明けまして、今ようやく観光客の方とか人の動きが活発になってきておりまして、福岡に来られるお客さんも増えてきておりますけれども、じゃあ、福岡に来てどこを御案内しようかというところで、なかなか思いつくところがないと。

どうしても太宰府に行ったりとか柳川に行ったりとか、そういった形が多いんですけども、福岡市のほうも一生懸命、歴史と文化を活かしたまちづくりということで、御供所地区であったり、あるいは福岡城のところとか舞鶴公園とかセントラルパーク構想とか、こういったものをどんどん出していただいて少しずつ整備が進んでいるところでございますが、これはまだまだ市民の方あるいは観光客の方々に知られていないんじゃないかと思っています。

ぜひ、一生懸命こういう取組みをしていただいて整備が進んでおりますので、こういったところをしっかりとPRいただいて、福岡の魅力、歴史と観光がこんなにあるんだよというところをどんどん情報発信していただければと思います。

以上です。

○安浦会長 どうもありがとうございます。

それでは、お願いします。

○委員 先ほど、住みやすい都市ということで、ここ10年のうちに福岡市の人口が十数万人増えた。何でこうなったのか。地域で一生懸命頑張って住みやすいまちにするために

頑張ってきたことが、少しは力になっているんじゃないかなと思うのですが、しかし、現在、自治会・町内会への加入率がだんだん減っております。それぞれ異動してこられる方の考えが多様化いたしまして、今までこの10年間やってきたもので受け入れていただけない部分がかなり出てきております。コミュニティ推進部よりいろいろ提案がございまして、その校区がいかに取り組んだらいいか、いかに取り組んでいるのかを発信してもらえるように、いろいろ作っていただいております。

ですから、13ページの地域活動への参加率の目標値70%という数字は、私たちに課せられた課題であると考えております。この出席者の中にも、自治会・町内会、全ての方が加入していらっしゃると私は信じておりますけれども、それがこの10年間のうちに変わってきたということを皆様方に御報告し、また、この70%という目標値をしっかり完全に達成したいと思っておりますので、何か地域から要請がございましたら、御協力のほど、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○安浦会長 どうもありがとうございます。地域の自治会等の在り方は、これは今後も非常に大きな課題で、新しい方向性も必要になるかもしれません。ぜひ、今の御意見を参考にされながら、自治会とも市のほうでお話し合いをしていただくことを期待したいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、どうぞお願いします。

○委員 全体的な印象として、この10年間というのは、日本の成長も上昇気流に乗って、その上昇気流に、全国の中でも福岡市はうまく乗ってやれてこれたんじゃないかという印象を持っております。ただ、その中で、やはり生活の質の部分ですが、もちろん現場は一生懸命やられていると思うんですけども、地域のことになると自治協さんだったり、高齢者の話になると、健康ということで、自分たちで頑張ってくださいという部分がちょっと強いのかなという印象を受けます。

やはり行政としてそういう部分に、地域コミュニティの問題だったり、高齢者の生活の足の問題だったりはその簡単に解決できることじゃないと思うんですが、今後10年間で、今、福岡市はスタートアップにも力を入れていますので、そういう中で、ITを利用したソリューションだったり、何かそういうものをこの次の10年で解決していく、そういう取り組みをもう少し強化していただけたらなと思います。

あと、都市の活力のほうですが、やはりこれからの10年、どうやって稼いでいくのかということが最大の課題であろうと思います。稼ぐ力と先ほど言われましたが、まさにそういうことだと思います。今後の10年も、柱としてスタートアップ、観光というもの

を立てられるのかもしれませんが、ある意味、今からは本当にごまかしが効かない、中身を本当に作っていかなくちゃいけない10年になるんだと思います。

そういう中で、この10年、よかったこともあれば、少し反省すべきところもあったのかなと思うのが、10年で世の中がいろいろ変わっていったのに対応していくので少しあっぴあっぴになっていたところもあるんじゃないかと思います。今後の10年は、さらにその先の10年を目指すために、本当に九州のリーダーとして福岡市が引っ張っていく、そういう視点で次の10年じっくりと取り組むような課題を整理して、選択と集中をもって第10次総合計画に活かしていただけたらなと思います。

そういう中で、私は一つ、ぜひとも取り組んでいただきたいのは、アジアというキーワードです。1990年代から、福岡市はアジアのゲートウェイを目指すということで言ってきておりますが、言葉ではそう言っているんですけど、なかなかアジアに福岡市がつながっている、出て行っているという実感までは、まだ届いてないんじゃないかなという印象を持っています。

アジアも成長していて、いろいろな都市があると思うんですが、何か明確に1点どこというのを絞って、次の10年のうちに、ああ、福岡市という都市はアジアとつながって成長していつているなという都市になっていただけたらなと思います。

10次総合計画でしっかりと議論して、次の10年を考えていきたいなと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○安浦会長 どうもありがとうございました。

それでは、お願いいたします。

○委員 会長、すみません、一つだけ先に質問させていただければと思います。頂いておきます資料2の振り返り（概要）の資料の位置づけなんですけれども、第9次の今回の我々の審議会としてのまとめという扱いになるのか、10次の計画に引き継がれるものなのか、どれぐらい世に出ていくものなのかをお尋ねします。

○事務局（染井） ありがとうございます。資料につきまして、世に出ていくというのは公表するという意味でしょうか。

○委員 いろんな意味を含めて、どこまで世に出るかということです。

○事務局（染井） 今回の資料は当然ながら全て公表させていただきます。併せて、この資料につきましては、今回10年間を振り返るということで、非常にトピックが幅広い中

でできる限り簡潔にというところでまとめさせていただいてはいますが、当然ながら今日委員の皆様からいただいた御意見も反映させていただいて、次の計画にしっかり引き継いでいきたいと考えています。

以上でございます。

○委員 分かりました。

○安浦会長 このペーパー自身はあくまでも福岡市が用意したものであって、この委員会の総意ではございません。ですから、福岡市側から見たときの振り返りとして、この審議会でこういう資料が出たという事実は公表されるということです。今日、皆様方からいただいている御意見を審議会の意見として一つにまとめる必要は全然ないと思っていますので、それぞれの御意見を言っていただければと思っています。よろしくお願いいたします。

○委員 じゃあ、その上で、表現を含めて気になったところが、先ほど来、出ています、特に福祉的な要素のところの成果がほかに比べるといま一つだというお話がある一方で、例えば子どものところでいいますと、「待機児童はほぼ解消」という書き方をされていたりですとか、あるいは教育のところも、「全ての児童生徒の学力向上」というように書かれているところが気になっております。

というのが、様々な資料の中にそれぞれの局が現在の課題も整理してまとめていただいているんですけども、「ほぼ解消」という言葉になると次へ進んでしまうような。そのテーマは一つ解決しましたよ、「ほぼ解消」だからいいんです、その次に進みますよというふうに見えるんですけども、実はそうじゃない。市民の方からすると、「いや、私のところはそうじゃない」という方もたくさんいらっしゃるので、総論で言えばそうなのかもしれないですが、そうじゃないと感じるところも気をつけていただきたい気がしますし、「全ての児童生徒の学力向上」というふうに言い切っているのかというようなところもちょっと気になります。

全体として見ないといけないところもありますけれども、きめ細かに実際に局がやろうとしているところがあるので、折角そうしようとしているのに総論でがばっとまとめて解決というふうにしてしまうのはちょっと残念だなという気がしますので、そういったところを細かく表現いただけると、先ほど来、出ている課題を自分たちはちゃんと認識して次につなげるというふうにつながるんじゃないかという気がいたしております。全体的には、また今後とも引き続き意見交換ができればと思っています。

以上です。ありがとうございました。

○安浦会長 ありがとうございます。非常に重要なポイントだと思います。特に量で測って97%とか98%以上になると、ほとんど普通のグラフで見ると変化がないように見えるんですけど、その最後の2、3%を埋めることが社会課題として重要な場合もありますので、それはそれぞれの施策によって違うということ認識して取り組んでいただきたいという御意見を言われている部分があると思いますので、その辺りもぜひ市は注意していただければと思います。ありがとうございます。

それでは、お願いいたします。

○委員 ありがとうございます。私は3年前から参加させていただきまして、まさにコロナ禍から見させていただいているんですけども、その間だけでも社会情勢の変化は非常に大きいなと思っております。

こちらの基本計画については市のマスタープランですので、指標を変えていくというよりは、最初に作った指標をしっかりと追っていくということで、私としてはいいかなと思っています。ただ一方で、数値の結果がどのように出ているかということについては、しっかりと精査する必要があると。特に達成していないものについての深い考察が必要かなと思っています。

例えば、施策4-5の公共交通の総合交通体系の構築については、初期値とか目標値に対して下回っていますけど、これはもちろんコロナという要因がありますということだと思います。加えて、市の人口は増えていますけど、今、働く人というか職場に行く人の割合というのは昔と比べて減っていて、3割ぐらいの人は在宅ワークをしているというようなデータも出ています。ですので、そういった社会情勢の変化だったりとかがここに影響しているということもしっかりと考察していくことがこれから求められるのかなと思っています。

社会情勢の変化について一番大きな柱となるものは、これからの変化としては量から質へというところではないかなと思っています。付加価値というものを追求していくことが、これからの市政の面でも重要になってくるのではないかなというふうに見ています。例えば、41ページの観光戦略のプロモーション、施策5-6のところ福岡市への外国人来訪者数は、この時点ではそういった指標を立てられていますけれども、ただたくさん量が来ればいいわけじゃないというのは皆さんだんだんお気づきになってきているのかなと思います。例えば、単価は低くてもたくさん来てくれる韓国人向けの戦略であったり、数は少ないけれども長く滞在してくれる欧米人、そちらの人たちに満足してもらえるための専門ガイドの育成だったりとか、個別に戦略を考えていく必要もあるのかなと思います。

同じく施策7-1のスタートアップについても非常に素晴らしい成果を挙げていらっしゃるかと理解しています。クリエイティブな事業所も含めて、目標を大きく達成しているということは素晴らしいことだと私は思っています。ただ一方で、先ほど御指摘もありましたが、製造業の部分が弱かったりとかいうところもあると。なので、なかなか高い目標かもしれないんですけども、最終的にはやはりユニコーン企業みたいなものが福岡から出てくるということが大きな目標になるかと思っておりますので、次期に向けて今までの数字をしっかりと洗って考察することに加えて、次は量から質へという変化をとらえていく必要があるのかなと思った次第です。

私からは以上です。

○安浦会長 どうも貴重な御意見ありがとうございました。

続きまして、お願いしたいと思います。

○委員 ありがとうございます。皆さん10年前のことをおっしゃっていましたが、あまりよく覚えていませんで、これも高齢化のせいかなという気がしています。

実は数年前に某国立大学でサマーキャンプという講義がありまして、アジアの大学から優秀な学生を集めて1週間から2週間、集中講座をやるんですね。その集中講座で僕がユニバーサルデザインの授業をしました。一生懸命話して、終わって最後に質問があるかと聞いたら、アジアの学生たちは、このデザインは僕らの国には必要ないんですよ。これは何だと。終わってから言うなと思ったんですが、自分たちの国には障がい者がいませんと言うんですね。つまり、まちの中に障がい者が出られていないんです。障がい者をまちの中で目にしたことがないんです。施設や家の中に隔離されているんです。日本も実は30年前は同じ状況でした。逆に北欧の国に行くと、今この福岡のまちには外国人や障がい者をしょっちゅう目にしますが、その数倍の障がい者がまちの中を自由に行き来しています。多分これが国の価値だとか、まちの価値だとか、そのまちの成熟度というのかなと、ここのところつくづく思っています。

国連が毎年、幸福度ランキングというのを出しますが、日本は常に40位か50位ぐらいなんです。その中の分析で、人が幸福を感じるのは、大きく言うと一つは経済性、つまりお金がたっぷりあるか。もう一つは、個人個人を大切にしてくれるという、この二つなんです。1人当たりのGDPが500万、600万を超えると、その人が幸福感を感じるのは、お金よりも一人ひとりを大事にしてくれているかというコミュニティの感覚なんです。ですから、今、福岡がどの位置にいるのかをもう一度考えて、施策の優先度を。市民が幸福感を感じるのとは一体どういう施策で、どういうまちの状況で幸福感を感じるのか。多分、僕はこのマスタープランの最終ゴールはそこなのではないかなという気が

しているんですね。

ということで、ざっと中身を見まして、10年前を一生懸命思い出してみたんですが、この10年間で一人ひとりを大事にするということであると、ジェンダーというのがすごくクローズアップされてきました。それから、ユニバーサルデザイン、バリアフリーは障がい者、高齢者、外国人ぐらいまでだったんですが、知的・精神障がい、認知症、つまり肉体的ハンディキャップではなくて、コミュニケーションとか考え方に能力の差がある人たちをすごく大事にしなきゃねという変化があったと思います。その視点で見ると、この中にジェンダーとか女性とか精神・知的障がいに関するものがほとんどないんですよ。施策1-1のユニバーサル都市というところにも、ほとんど障がい者のことしか書いてなくて、そこの見直しはぜひ必要かなと考えています。

すみません、ちょっと長くなりました。以上です。

○安浦会長 どうもありがとうございます。言葉の基本的な定義で、障がい者で括ってしまっているのかという問題も御提起いただいたのではないかと思います。また市のほうでもいろいろ御議論いただければと思います。

それでは、お願いいたします。

○委員 この10年間、都市の成長と生活の質の向上を掲げまして、福岡市は高島市長の下、進めてきておりまして、本当に細々とした施策を私たちも随時提案させていただきながら、かなりの部分で実現できているのではないかなと思います。

まだまだ足りないところもいっぱいあると認識しておりまして、特に令和5年度は子ども子育て支援策なんかは、他都市に比べても子どもの虐待防止の観点も含めた子どもの施策の充実にもかなり踏み込んで施策を推進しておりますが、今、私が思っているのは若者に対する支援を次期計画の中にもう少し入れていいんじゃないかと。妊娠・出産・子育て、それから高校を卒業するまでの間はかなり充実してきておりますが、その前に結婚がなかなかできない、経済的な理由と適当な人に巡り会えないというのが1位、2位を占めております。県や民間の事業者が婚活支援の施策をやっておりますが、やはり福岡市でも独自にやっていいんじゃないか。若者に対する婚活支援、もしくは若者に対する奨学金の返還支援、これは先ほどからもお話が出ましたけれども、工学部出身の学生さんを福岡にとどめるために、その方たちに特化した奨学金の返還支援をやっている都市が実際にあります。そういうようなことも考えながら、若者施策ということで今のこども未来局の施策の中に若者支援が入っていますけど、そこだけでいいのかなというふうに常々考えておりますので、次期計画の際にはぜひ参考にしていただきたいなと考えております。

もう一つは、2040年度温室効果ガス排出量実質ゼロで、福岡市は全国でトップを切って大きな目標を掲げております。2040年なので今から17年後のことですね、この次の計画が終わったときには、あと数年で本当に実質ゼロが達成できるかどうかというのが目の前に来ている状況になっていると思います。この2040年というのは福岡市独自で掲げた高い目標ですので、ここが実現できるような計画を次の計画の中にはたくさん入れ込んでいただきたいと思いますと考えております。

以上です。

○安浦会長 どうもありがとうございます。

それでは、お願いいたします。

○委員 全般的にこの指標を見ると、基本計画、行政の皆さん、市としては頑張っていると思うんですけども、その中で、18ページ、施策3-1の災害に強いまちづくりの中で、自主防災活動への参加率あるいは災害時要援護者情報が活用されている地域の割合等の指標があるんですけども、実際、今、いろんな災害時に援助が必要な人たちがどこにいるかというのがなかなか地域に見えてこなくて、個人情報の問題等もありますけれども、どこに支援が必要な人がいるのかというのが実際現場では分からないという課題があります。この辺をぜひ次期計画においては、実際に活用しやすくしていただきたいと思います。取扱いが非常に難しくなっておりますけれども、そういう中でも実際の災害があったときには、支援が必要な方にしっかりと支援が届く体制が作れるような、そういうことに取り組んでいただきたいと思います。

それから、23ページ、施策3-4ですけども、これはモラル・マナー向上市民啓発事業ということで、平成25年度の33.8%から令和4年度は47.4%ということです。目標値60%ですけども。初期値よりはかなり頑張っておられますけれども、頑張っているとは思いますが、それでも50%に到達しておりません。半分以上の方がモラル・マナーに対しては満足をしていないというところでございます。行政で頑張るところもちろん必要ですけども、これについてはやはり市民の皆様への啓発というか、協力がとてもとても必要なことだと思います。

やはり、まちはもちろん行政と市民の皆さんが共に協力し合いながら成長していく、住みやすいまちになっていくべきだと思いますので、行政が取り組むべきこともたくさんありますけれども、市民の皆様にも御協力いただく、あるいは御理解いただく必要があるんじゃないかなと思いますので、次期計画においてはそういう視点も取り入れていただければと思います。

以上です。

○安浦会長 どうもありがとうございました。モラルの問題も、ここでは自転車とかありますけども、新しいキックボードみたいな想定してない移動手段まで出てきたりして、非常に難しい視点もあると思いますので、ぜひそういうことも視野に入れてお考えいただければと思います。どうもありがとうございました。

それでは、何かございますでしょうか。

○委員 お世話になっております。

今回御報告をいただきました計画の実施状況、それから進捗度合いにつきましては、私ども県庁内の各部局で共有をいたしておるところでございます。コロナの影響等を受けた数値ということも一部ございますけども、私ども各部のほうからは特段の意見は出ておりません。

これ、実は県の総合計画なんですけれども、この県の総合計画を私、担当している部署になります。このように数値目標、県それから福岡市さんと共通するような行政課題、これを共有するということが大変意義深いことだと考えております。

それからまた、服部知事も常々申しておりますけども、福岡県には両政令市がございます。福岡市、北九州市、こちら政令市につきましては、県にとっての成長エンジンだということを申しております。このように福岡市の発展の波及効果を、私どもとしては県の各市町村に広がるようにしていければと。具体的には、人、人材の行き来とか、あるいは物流、物の流れ、それから、お金、資金ですね。こちらの循環、流れ、こういったものが県内に浸透していったら、全体的な向上につながっていければと考えているところでございます。

先ほど県の総合計画に触れましたけども、特にこの中でのキーワードで「選ばれる福岡県」ということを掲げております。特に、子育てする場所として選ばれる、あるいは定住する場所として選ばれる、あるいは若者が働く場所として選ばれる、そして、外国人の方にも観光面で訪れて、来ていただくだけではなくて、やはり留学生の方に学んでいただく、あるいは外国人にも働いていただくと。そういったいろんな面で選ばれる福岡ということを目指していきたいと考えています。特にそういった面で、福岡市さんとはまた一層連携をさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

○安浦会長 どうもありがとうございました。県と市の協力関係というのも今後また大事になってくると思いますので、ぜひ両自治体同士での意思疎通も進めていただければと思います。よろしく申し上げます。

それでは、よろしく申し上げます。

○委員 中小企業の支援という観点から2点、御意見をさせていただければと思っております。

全国的な課題として今言われておりますのが、皆様御承知のとおり、人手不足ということでございます。限りある人員を使って、いかに売上げを上げていくかということで、生産性の向上というのが必須となっております。

福岡は御承知のとおり、ものづくりというよりは商業とかサービス業の比率が高い都市ですので、やはりサービス業の生産性向上は避けて通れないということでございます。そのためには、中小企業のDX化、それから事業の再構築ということで、新しい事業や新しい分野に進出されるか、それから、新しいサービスの提供方法を開拓していくかというようなことが考えられると思うんですけども、そういった事業者のチャレンジに対して、福岡市さんとしてさらなる後押しをしていただくということで、例えば、次期の計画にはそういった生産性に関連する数値目標も入れていただくといいのかなと思った次第でございます。

それからもう1つですけども、こういった計画などを拝見させていただきますと、非常に前向きな攻めの項目立てになってすばらしいと思っておるんですが、中小企業の大きな課題の1つとしましては、事業承継というのがございます。福岡でも、老舗であったり、非常に優れた技術を持っていらっしゃる事業者さんもいらっしゃるんですけども、やはり後継者がいないというふうな課題を抱えていらっしゃるというのも聞いておりますので、そのためには例えば第三者承継であったり、そういったのも視野に入れた事業承継の後押しというのも必要なのかなと思っております。

福岡市は非常にいろんな環境に恵まれておりまして、こういった、いけいけどんどんな計画が策定できるような状況ではございますけども、やはり既存の事業者を守って、それを未来につないでいくというふうな計画も中に盛り込まれてはいかがかなと思った次第でございます。

以上でございます。

○安浦会長 どうもありがとうございました。攻めだけじゃなくて守りも大切だということで、これはいろいろ示唆に富んだ御意見かと思えます。

それでは、どうぞ。

○委員 今日、冒頭に基本計画の振り返りを事務局のほうからお話しいただきましたけども、振り返りをお聞きしていると、やはり基本計画という10年のスパンで作られるもの

をはるかに凌ぐスピードで環境が変化しているなということを改めて感じました。誰も想定しなかったコロナもそうですし、SDGsも2015年に策定されましたし、その後、国際間の緊張だとか、何よりも平成24年にこれを策定したときには、福岡市にとって非常に重要である天神ビッグバンでさえ、きちんとこの中に入っていなかったわけですから。つまり、環境変化がこの基本計画をはるかに上回るスピードで進んでいるということです。

そうすると、基本計画はどうあるべきかということになると思うんですけど、さりとて基本計画は10年というスパンで考えざるを得ないという中でどうあるべきかということ、マスタープランとしての基本計画というのは、戦略ですね。だとすると、刻一刻と変わっていく環境変化というのは、戦術という形で、いかにこれに対応していくかという形でしていくことではないかと考えるわけです。そうすると余計に、基本計画というのは、よりよい計画を策定する重要性が増してくるわけですね。

よく学生に、まず「企業の成長って何？」と言うと、売上げが多くなるとか、利益率が高まるとか、知名度・ブランド力が上がるとか、市場シェアであるとか、社員が増えるとか、いろんなことがあるわけですけど、これはみんな正解です。企業の成長というのではそれは全て正解であって、そうすると都市の成長というの、都市のありたい姿というの、いろんな答えがあると思うんですね。

先ほど委員が言われた、まさに個人一人ひとりが幸せと感じられるという、この目指す姿は誰もが納得するとてもすてきな目指す姿ではないかと思います。そういうきちんとした目指す姿を戦略として作っていくということが重要なのかなと改めて考えました。

その中で今回、第10次、次期の戦略、基本計画に向けてぜひお願いしたいことは、目指す姿を策定する上で、市民目線でなぜそれが目指す姿に選ばれたのかということきちんとやはり明示する必要があるなと感じております。

私自身、今回の第9次では都市の成長部会というものを担当させていただいて、その反省でもあるんですけど、基本計画を見ていくと、四つの都市像、支え合い心豊かに生きる都市ということ、持続可能で生活の質が高い都市というのは、これは誰もが納得することだと思うんですけど、なぜ人を引きつけるのが大事なのか、なぜアジアの拠点都市であることが必要なのかって感じられる方もいらっしゃると思います。だから、それについて、なぜ私たちはこういう目指す姿を策定したのかということ、市民目線で十分にこの基本計画の中に盛り込むということが、やはり納得をしながらマスタープランとしての戦略を掲げていくことではないかなと思うと、第9次の一つの反省として次期の戦略、計画ではそういったものを入れていただきたいと考えております。

以上です。

○安浦会長 どうもありがとうございます。基本計画の在り方について、非常に示唆に富んだ御意見をいただいたかと思えます。

それでは、小川副会長に、まずは個人的な御意見を伺いたいと思えます。

○小川副会長 僕も総合計画に関わって10年経って、今日はちょうど80歳になりまして、いよいよ10年というのは、長いような短いようなという感じがしております。

まず、皆さんも見ていただきたいんですけど、参考データ集の7ページです。7ページの自然動態というところを見ていただきますと、人口の出生数と死亡数、その中での自然増減というのが出ております。これを見ておりますと、出生数が死亡数よりも多い時代がもう過ぎ去ったということが歴然と分かります。

今までは、多産多死社会から少産少死社会へというふうに言っていたんですが、現在の日本は少産多死社会になっているんです。この大きな人口変動というのは変わりません。今後も変わりません。どれだけ少子化対策を入れようとも、この動向は変わりません。これは人口推計の上での厳然たる将来の姿だと思います。それに立ち向かわなければならぬ一時期をこの10年間、準備してきたんだと思うんです。それが少子化対策であったりなんたりしたんです。でも、今までのやり方で十分かということ、十分でないということがこれで厳然として分かるわけです。

様々な課題が出ておりました。みんな、しかし、こうした人口の変化というものに伴って出てきている問題なんです。これは、日本だけの問題ではないんです。世界がこういう状態になっています。

今、世界は大きく経済の内容が変わっております。ケア経済へと移行すると言われております。ケアの意味合いは、日本では介護ばかり言っていますけれども、介護だけではありません。保育も教育もケアの一部です。ケア経済化というのを公的な機関だけに任せきりにしている時代も終わりを告げそうです。

この問題は、経済界全体で考えなければならない課題でしょう。同時にそれはケアということをお我々がどう考えるかという、人々の生活様式にも関わっております。ケア労働者というものだけにそれを頼むようなことで、労働力不足を嘆いているような段階ではなくなったということです。新たなケアの在り方はどうやったらいいのか、専門的な労働者と、我々専門的ではないかもしれないけれども普通の市民としてケアをどう考えたらいいのか、こういうことも大きな課題になってくると思えます。

そういったようなことについて、これまでの10年間は一つ一つの部分で対応してきた段階だったのではないかと思います。でも、これからは、恐らく次の計画のときには、それを総合的にどう対応するかということを明確に目的意識として考えながらやっていく時代になっていくのではないかと思います。

まさに、コロナの時期にそういう問題を改めて我々に問いかけられたと思います。その中で、次の時代を切り開く小さなきっかけも見えてまいりました。いわゆるICTやロボットなんかの利用ということで、ケアのDXということも言われています。こうしたことを具体的に福岡から発信していくというのが次の課題かと思っておりますので、ぜひ次期の方々にはそういう観点を大事にしていきたいなと思っております。

○安浦会長 どうもありがとうございます。この7ページの自然動態は、かなり衝撃的な数値であるということを再認識された方も多いのではないかと思います。

一通り委員の皆様方からの御意見をお伺いしましたが、ほかの方の御意見をお聞きになって、さらに追加の御意見がございましたら挙手をいただければと思います。

どうぞ。

○委員 人口が増えているという前提で、ちょっと疑問なのが、今、福岡市の地価がかなり上がっていて、我々の周りの人間はもう福岡市に家を買えないと皆さん言っているんですね。福岡市の人口が増えている、みんなどこに住んでいるのかがよく分からないんですけれども。

本当に住みやすいと言ったときに、かといって一方で空き家問題とか土地・墓問題は今から必ず大きくなっていくんだろうと思っているので、その mismatch というか、何をうまくすれば、より安く家を買えるという言い方も変ですけども、住みやすい、家を買やすいというか、何かそういうのも、今からの若い人たちが福岡に定住していくことを少し考えてやらないといけないのかなというのと、働き方の一つで、今、地域限定を選ぶ若い人が意外と多いという感覚があって、当たり前九州各地だとか全国転勤は嫌ですと、自分はここがいいんですというのを選ぶ若い人が思ったより増えているというのは感覚として持っていて、そういうことを意識したことも大事なとちょっと今思ったので、すみません、最後に言わせていただきました。

○安浦会長 どうもありがとうございます。

こういう視点というのはなかなか総合計画には書きにくい部分かもしれませんが、何か今の点に関してでも結構ですので、御意見のある委員の方があれば。

どうぞ。

○委員 今、委員が言われた地価ということは本当に重要な視点だと思います。先ほど都市の成長というのは企業の成長とのアナロジーで少しお話をしましたが、バンクーバーは御存じのとおり、エコノミストで9年連続世界で最も住みやすいモストリババ

ルシティと常連でトップだったのが今はそこにいないんですね。なぜかという、高くても誰も住めなくなってしまったということです。

ということは、人口が増えることが成長なのか、それで皆さんが幸せになるかという、多分違うと思うんですね。ですから余計に、先ほど委員が言われた、一人ひとりが幸せと感じられるというのは、人口がこれ以上伸びていくことではなくて、まさにコンパクトシティというのは、市の枠組みとしてのコンパクトだけではなく、コンパクトだけれども幸せな人たちが住めるところも一つの目指すべき姿になってくるのかなと思うと、今のような御指摘をいただいたことは恐らく第10次の中で考えていく必要があることだと、まさに同感でしたのでコメントさせていただきました。

○安浦会長 ありがとうございます。

私は、福岡アジア都市研究所という福岡市の外郭の財団法人の理事長をやっておりますけれども、昨年度と今年度の福岡市からいただいている総合研究のテーマは、ウェルビーイングというのは何なのか。このウェルビーイングという概念を、できれば次の基本計画の中でうまく定義して、一つの柱として入れていきたいと。

ただ、これはいろんな本が出ているわけですけど、そのウェルビーイングという概念自身をどう定義していいか、そして、それをどう測るのか、そういうのがなかなか分からないので、研究所のほうで研究員が、一つのそういうものの測定の仕方あるいは捉え方に関しての報告を昨年度作って、また今年度も続けて研究しておりますけれども、今のお話というのはまさにそういう視点にも絡んでくる。本当に一人ひとりにおけるウェルビーイング、幸せとかそういった感覚というのはみんな違うわけで、その違う中で、みんなが自分の気持ちでいかに満足できるかという、そういう視点を一つのテーマにできないかというのは福岡市のほうもお持ちのようなので、そういう視点が次の基本計画に何らかの形で入ってくれば非常にいいんじゃないかと私も思います。

まさに経済的に土地が買えるか、ちゃんと環境のいいところに住めるのかというのは非常に大きなポイントだと思います。どうもありがとうございます。

ほかに、どういうことでも結構ですので御意見があれば。先ほどSDGsの話もされましたけれども、何かほかの委員のお話聞かれて付け加えられることとかは。

○委員 すみません、先ほど御指摘をいただいたんですけど、私自身は今、SDGsが2016年からスタートして全世界でずっと行っておりますので、そういうところを根底にしてやっていくと、世界的なバランスというところで見落としがなかったのかなということを考えます。

このSDGsも国連が全世界の人たちが、どういうふうな状況が幸せなものか、社会

なのかということで考えて、ミレニアムからSDGsのほうに発展して、17の項目まで増やしておりますので、そういう中で今回のマスタープランをずっと見渡していくと、何か足りないものとかが見えてきて、そして、じゃあどこが足りないんだろう、私たちのこの福岡市にと。そういうふうに見渡すこともいい国際指標といえますか、そういうもので見えるのかなというふうにしてお話をさせていただいた次第です。

以上です。

○安浦会長 どうもありがとうございます。やはりSDGsのような国際的な視点が出てきている中で、この基本計画を見直すということも非常に大切な考え方かと思えます。どうもありがとうございました。

ほかに何か委員の皆様方、御意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、小川副会長から全体を総括して、今度は個人的な御意見ではなくて全体を総括した御意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

○小川副会長 この9次の総合計画は、都市経済の成長というものと市民生活の向上というのを上手にリンク、循環的な関係として捉えていこうというのが狙いだったと思います。そのことについて本当にそれがうまくいったかどうかというのが、一つの評価の視点ということになると思います。

これは一人ひとり評価する人によって違いがあろうと思うんですね。都市発展は十分にしたいけれども、市民生活の向上がそれに見合った形になったかどうかということについてはどうなんだろうかという話もあるかもしれません。一方、市民生活はそれなりに広がっていったけれども、分野によっては都市経済の中に立ち行かなくなった経済というのも明確に出てきたようなところもあります。

先ほどちょっと話題が出ました地価の問題なんかは世界的な問題で、特にICTで成長した都市には世界各国から優秀な人々が集まります。その人たちは高給取りです。高給取りの人たちが一番最初に買うものはいい住宅です。地価が上がります。今まで住んでいた住民は都心部に住めなくなって郊外へ、郊外に住めなくなってほかのまちへ追い出されていくという現象が、アメリカでもヨーロッパでも起こっております。

こうした現象が起こってきたときには、何か空回りの現象、循環ということになってしまいますね。こういうようなことがないようにするというのが、何よりもこの9次の狙いだったと思います。

しかし、そのときの背景として見れば、ほかのまちがなかなかできないところが、福岡で非常に重点的に取り組むことができたところはあったと思うんです。若い人たちに期待をかけた、新しい事業を起こすということに期待をかけた、こういうようなところ

は、ほかのところではなかなかできなかったことだったと思います。そういう点では非常に成果を上げたのではないかと思いますけれども、しかし、これが今後とも続くかどうかというのは絶えず課題になっておりました。

大学生がこれだけ集まっているのに、果たして福岡に来た大学生たちが、福岡で次の人生計画を実践に移すことができたかどうかということになると、やっぱり何だか階段を上っていく途中の踊り場みたいなもので、ここでちょっと一服したようなことだけでも、ほかのまちに行ってしまったなんてことが続いてはいやしないか。こういったことも反省しなければならないことかもしれません。

様々なところでそれを改善するための取組みもやってきたと思います。それが本当に成果を上げていくためには、まだ一層の改善策も必要なのではないかなと思っております。様々な分野で様々な取組みがなされてきて、全体としての枠組みとしていい循環が起こるようなことを目指してきたことについては自負しておりますけれども、本当にそうなったかどうかということについては、さらに精査をしながら、できなかったことについては、次の計画を立てる方々、そしてそれを推進する方々に託するほかないんじゃないかなと思っています。

本当にこれまでの委員の方々の御意見は、僕も非常にいろんなことで触発されましたけれども、今後ともそういう姿勢は続けていっていただきたいなと思っております。

以上でございます。

○安浦会長 小川副会長、どうもありがとうございました。

それでは、本日、委員の皆様からは本当に多様な視点からいろいろな御意見をいただきました。特に生活の質に関連する問題につきましても、まだまだいろんな側面から問題点があるんじゃないかという御意見が多かったかと思います。次の計画に向けまして、この辺は市のほうでもしっかり受け止めていただきたいと思います。

本日いただきました御意見に関しましては、事務局で取りまとめの上、後日、委員の皆様へ送付していただきたいと、こういうふうに思います。そこでまた委員の皆様から、そのまとめに対して「違っているよ」というような御意見がございましたら、遠慮なく事務局に修正の要求をしていただければと思います。

また、委員の皆様におかれましては、まだ1年数か月はこの現在の第9次の基本計画が続いているわけでございます。次の第10次の計画の策定のいろいろな活動も始まると思いますけれども、今後とも専門的な知見からの御意見を市のほうにどんどん寄せていただければと思います。福岡市の発展に御理解、御協力をいただければと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、以上をもちまして本日の議題については終了とさせていただきます。

最後に私から皆様に御礼を込めて一言お話しさせていただきたいと思います。ちょうど10年ちょっと前、2012年の夏に、この計画委員会を本当にひっきりなしに何度も開いて、実際そのときに全部原稿を書いて説明されたのが、今、正面にお座りの、現在の光山副市長、当時の担当部長でられました。何の因果か、今日の委員会、副市長に御出席いただきましたことを御礼申し上げます。

あの夏も非常に暑い夏でございましたけど、何か10年前を思い出しながら今日を過ごさせていただきました。都市の成長と生活の質の好循環ということで、2つは両輪という形でこの計画を作らせていただきましたけど、今日の各委員からのお話にもありましたように、やはり基本理念というのをどう持つかということが非常に大切であるということ、これはこの10年間のこの審議会、あるいは福岡市の動きも含めて、我々身に染みたところかと思います。

それからもう1つ、大きな我々の学びは、想定外のことが起こる。コロナはまさにそうでございますけど、委員から言われましたように、想定以上に社会の変化のほうが多い。こういう問題、それから国際情勢の問題等も含めて、そういう想定外の問題に、今のはやり言葉で言えば、どうアジャイルに対応していくか。これは行政に求められる部分でございますけど、そのために基本計画、あるいは基本理念をふらつかせたら、福岡市がどっちに向かっているかが分からなくなるということで、やはりぶれないで済む基本理念、基本計画を作っていたらいいと思います。その中でアジャイルに戦術レベルで対応していくという、ここが非常に重要になってくるかと思っておりますので、行政としては、しっかりとした軸と、それからアジャイルな臨機応変な対応、これが両方できるような基本計画にしていきたいと思います。

それと、委員からもありましたように、SDGsのような世界的、標準的な考え方、これもまた今後10年でどんどん変わっていくかもしれません。エネルギー問題、環境問題も含めて我々が取り組まないといけない問題、それから小川先生から御指摘のありました、もう少産多死時代に入ったという認識、そういったものも考えながら、外国人が移民という形になるのかどうか分かりませんが、外国人が入ってくるということも想定した社会を考えざるを得ない時代になってくるのではないかと思います。

そういう中で、最初に委員からもありましたように、市民の意見をいかに取り入れるかという。基本計画の中に市民の意見をたくさん取り入れることによって、市民の了解性、あるいは自分たちも参画して福岡市を良くしていこうと、そういう機運は極めて重要であると思います。

今、10年前と大きく違うのは、ITの時代で、ほとんどの人がモバイル端末で自分の意見を打ち込むことができる、音声でしゃべっても文字として市に届けることができる時代になっております。そういうランダムな御意見でいただいたものを、いろいろな情

報処理で見えやすい形にしていく、そういう技術も随分使えるようになってきております。ぜひその辺りも活用して、今は小中学生全員モバイル端末を学校で持っているわけですから、子どもたちの意見もぜひ取り入れていただくというような、そういう柔軟な発想で、未来を考えた基本計画というものを作っていただければと思います。

最後のほうはちょっと押し売りに近いような意見になりましたけども、ぜひ思い切った新しい手法を使いながら市民の意見を集めて、指標も、数値にしやすい客観的な指標だけではなくて、市民一人ひとりの主観的な思いをうまく酌み取る仕組みを作っていきながら計画の進行状況を把握する、そういうシステムを作ること自身も行政としては非常に重要な今後の仕事になると思いますので、ぜひよろしく願い申し上げます。

それでは、私からの話はこれで終わりたいと思います。事務局のほうにマイクを返したいと思います。

○事務局（高橋） 安浦会長、ありがとうございました。

会長からも御案内いただきましたとおり、皆様からの御意見につきましては、取りまとめの上、後日お送りさせていただきます。

本日の議事は以上でございます。

3 閉会

○事務局（高橋） 閉会に当たり、副市長の光山より皆様に御挨拶申し上げます。

○光山副市長 御紹介いただきました副市長の光山でございます。閉会に当たりまして一言御挨拶をさせていただきたいと思っております。

安浦会長、小川副会長、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、またこの大変お暑い中、長時間にわたる熱心な御審議をいただきまして、まずは感謝申し上げます。ありがとうございました。

先ほど安浦会長からお話がありましたように、まさに10年前、この総合計画審議会を開催させていただいて、担当部長としてこのマスタープランの策定に携わらせていただきました。まさにこういう席に座っている皆さんと、侃々諤々の議論を、暑い中、毎週のようにした記憶が鮮明に蘇ってまいります。この福岡をどうやったらいいまちにできるのか、元気なまちにできるのか、魅力あるまちにできるのか、そういったことを本当に皆さんと短期間でしっかり御議論させていただいたと思っております。

あれから10年経ちました。先ほどもお話をいただいたように、都市の成長と生活の質の向上の好循環を創り出すということを基本戦略に、様々なまちづくりに取り組ませていただきました。ハード・ソフトの両面からいろんな取組みをして、まさに今日御意見

いただきましたように不十分な部分も多々あるかと思いますが、当時150万人に満たなかった人口が現在164万人ぐらいということで、14万人ほど増えまして、毎年大体1万4,000人ほどの人口増というところです。日本全体が人口減少となる中、こうやって福岡市を働きたいまち、住みたいまちとして、人々に選んでいただいている、企業に選んでいただいているということは、我々行政にとっては大変評価していただいているということで、うれしく感じているところでございます。

ただ、今日御議論ありましたように、コロナ等を経て、様々な課題が顕在化した、さらには社会の価値観が大きく変化してきたと思っております。DXやデジタル化の推進、さらには働き方改革、また先ほどありました個々人の幸せ、まさにウェルビーイング、さらにはダイバーシティ、多様性の問題、こういった新たな社会課題、社会の変化、そういったものをしっかり取り込んでいく。しなやかにこの市政に取り込んで、スピード感を持ってチャレンジをしていく、こういったことが重要だろうと思っております。

そういったことから、新たなマスタープランの策定に取り組んでまいることになります。まさに本日はこれまでの9次計画を振り返りながら、新しいマスタープラン、大きな方向性について様々な御意見をいただいたと思っております。いただいた御意見は取りまとめの上、しっかり次のマスタープランに反映をさせていただきたいと思っております。様々な形での市民参画をどうしていくのか、また、ぶれない基本戦略をしっかりとマスタープランに反映していく、こういったものに努めていきたいと思っております。

先ほど安浦会長からもお話がありましたように、この審議会はこの体制での最後の審議会になります。現在はマスタープラン策定をしてから進行管理の状態でございますので25人の体制でございますけれども、今後、策定の段階になりますと、48人のまた多くの方々に御参加をいただきながら、御議論をしっかりとさせていただきたいと思っております。

最後になりますけれども、皆様におかれましては、今後とも様々なお立場からお力添えをお願いするとともに、引き続き福岡市政に御協力をお願いを申し上げまして、私の閉会の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局（高橋） 以上をもちまして、福岡市総合計画審議会を閉会いたします。本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。

お配りしている手提げ袋は資料のお持ち帰りに御利用ください。また、資料の郵送を御希望される方は職員にお声かけをお願いします。それでは、お忘れ物などの無いようお気をつけてお帰りください。

閉 会